

絵によるコミュニケーション

(英国自閉症協会機関誌 Communication, spring, pp.15-17, 2000) より

(写真2葉省略)

スー・ベイカー

(2000/10/29 門 眞一郎 訳)

PECS (Picture Exchange Communication System) が英国にも入ってきました。これは一風変わった方法で、絵によるコミュニケーション・システムであり、イメージの交換により子どもの学習を助けるものです。Pyramid Educational Consultants UK が英国でのPECS プログラムを運営しており、ディレクターのスー・ベイカー Sue Baker に PECS について説明してもらいましょう。

* * *

絵交換式コミュニケーション システム (PECS) は、英国では新顔です。英国でのトレーニング・ワークショップは1998年に初めて開かれました。その後は、自閉症などのコミュニケーション障害の子どもや成人に関わる親と専門職の両者から関心を寄せられ、ジェットコースターのような勢いで広がっています。PECS を知った今となっては、「これはあまりにも当然のことだ！」とか「ジグソーパズルの失われたピースが見つかったかのようだ」とは、よく耳にする感想です。では、同じく絵を使う他の技法とPECS とはどこがどう違うのでしょうか。

重要な違い：初日から自発的コミュニケーションと他者との相互交流を重視する

PECS の基礎となるモデルは、応用行動分析からの原理を用い、気持がよいほどに子ども中心で、機能的な観点に立つモデルです。大人からのプロンプト(促し)に頼るのではなく、子どもの方から始める重要かつ意味のあるコミュニケーションに、PECS は着目します。

PECS により、子どもは身の回りにある物で自分が欲しい物を絵と交換して手に入れることを学習します。例えば、飲み物が欲しいなら、子どもは飲み物の絵を大人に手渡します。大人はすぐにその飲み物を子どもに与えて応じます。この交換フォーマットによって、コミュニケーションに必須のスキルが最初から組み込まれるのです。必須のスキルとは、例えば相手に近づく、相手と相互交流する、それをプロンプトされてではなく自発的に行なうといったスキルです。

なぜ PECS は米国で発展したか

PECS は、10年以上も前にデラウェア自閉症プログラムで、ボンディ心理学博士 (Dr Andrew Bondy) とフロスト言語療法士 (Lori Frost) とが開発したものです。2人は、従来の技法の欠点に次第に気づくようになりました。

自閉症の子どもに話すことを直接教える技法では、なかなか進まないし、その成果もおぼつきません。発声模倣が伸びるためには、相手に注意を向け、目を合わせ、模倣するということができなければなりません。こういったことはすべて自閉症スペクトラムの子どもにはとても難しいことです。

サイン言語は、視覚的ではありますが、同様のスキルを必要とします。例えば、見る、注意を払う、動作を模倣するといったスキルです。当初は多少成果が上がるものの、自閉症の子どもは、意味のあるコミュニケーションの中でサイン言語を自発的に使うことをめったにしません。子どもの学習は、他者からのプロンプトに応じるときだけ性じるので、プロンプト依存（指示待ち）とよく言われます。例えば教師は、「何が欲しいの?」とか「ビスケットのサインをしなさい」と言い、子どもはサインを、あるいはサインもどき!を出します。サインに関するもう一つの大きな問題は、世間一般には通用しないので、統合（インクルージョン）を妨げることになるという点です。

絵指示法は、別の一群のスキルに頼ることになります。コミュニケーション・トレーニングを始めるとあたっては、まずその前に絵の識別、絵と物との対応、指差し反応の形成などのトレーニングを行わなければなりません。それには長い期間が必要です。多くの自閉症の子どもにとって、指差しは難しい課題であり、一部の子どもでは、コミュニケーションの純粋な試みと自己刺激的に指で叩くことを区別することが困難です。さらに、絵を指差すことは、人に近づくことと結びついてはいません。子どもが絵を指差したり、トントン叩いたりしても、そばにいてそれを見てくれる人がいなければ、それは本当のコミュニケーションにはなりません。「そのボールを指差しなさい」とか「これは何?」などのプロンプトに応じるよう子どもは励まされるので、指示待ちはこの技法の場合にもよく見られます。だからこの場合もやはり、自発的コミュニケーションは稀にしか起こらないのです。

従来の多くの技法は、周囲にある物について命名したりコメントしたりすることを子どもにまず教えます。ボールの絵（あるいは実物のボール）を見せ、「これは何?」と質問したら、子どもは「ボール」と言わねばなりません。うまくできれば、子どもにとっての結果は、純粋に対人的なものとなります。すなわち「そう、よくできました。ボールですね」と誉められます。自閉症スペクトラムの子どもにとっては、そのような対人的な報酬はとても弱い動機付けにしかなりません。自閉症スペクトラムの子どもは、情報を共有したり、対人的な結果を受け取ったりするために、相互交流に参入することを選んだりしないのです。それとは対照的に、要求すること（e.g. 「ボールください」）に基づく学習ははるかに容易です。直接的な結果（ボールを受け取ること）は、きわめて強い動機付けとなり、学習を成立させやすいのです。

PECS の 6 つのフェイズについての家族の経験談

多くの家族にとって、PECS は干天の慈雨のようにやってきました。そう言うには多くの理由があります。PECS を始めて、何が欲しいかを穏やかにかつ明瞭に子どもが親にコミュニケーションするようになったことは、多くの親にとって初めての経験でした。

以下に述べるフェイズ 1 からフェイズ 6 で構成されるような体系的なスモールステップ方式を親は好みます（もっと詳しいことは、フロスト&ボンディ著「PECS トレーニング・マニュアル」1994 をご参照ください）。

次に、機能的コミュニケーションを重視している点です。これは自分にとって、とても重要で、意味があり、関係のある物事についてのみ、子どもは親にコミュニケーションする傾向があるという事実に基づいています。次第に子どもは、自力で物を見つけ手に入れることに習熟していき、他者の力を必要としなくなることに親は気づきます。さらに、動機付けされコミュニケーションする価値

を子どもが感じるものは何かを明らかにするために、まず最初に費やす時間を親は楽しむのです。例えば、どんな食べ物・飲み物・玩具・活動がよいだろうかとあれこれ試してみる時のことです。

最後に、絵・シンボル・写真・商標などを使うというローテクの簡便さがまた魅力であり、親には取り組みやすいのです。

フェイズ1：最初の絵交換を教える

子どもが本当に好きな物は何かを確定して (e.g.ポテトチップス、レーズン、シャボン玉、トランプのピンなど)、その絵カードを用意します。例えばレーズンが好きだとすると、好物 (レーズン) を見せ、レーズンの絵カードを子どもとレーズンとの間に置きます。大人は子どもがレーズンに手を伸ばすまで待ちます。子どもがレーズンに手を伸ばしたら、子どもの背後に立っている第2の大人は、子どもが絵カードを取り上げ、レーズンを持っている第1の大人 (手を広げて待っている) に手渡すよう手助け (身体的プロンプト) します。子どもが絵カードを手渡したら、すぐに第1の大人は「レーズン!」または「ああ、レーズンがほしいのね」と言い、そしてただちにレーズンを子どもに与えます。ここで重要な点は、子どもがコミュニケーションを始めるまでは、何が欲しいのかを子どもに尋ねたり、絵カードを手取るように指示したり、何かを言ったりしてはならないということです。身体的プロンプトは徐々にフェイドアウトして (控えて)いき、子どもが自力で絵カードを大人に手渡してアイテム (絵が示す物) と交換できるようにします。

フェイズ2：自発性を高め、その範囲を広げる

このフェイズはよく「移動フェイズ」とも呼ばれます。子どもは、大人を見つけたり、あるいは絵カードを取ってくるためには移動しなければならず、その移動距離が一步一步延ばされていくからです。いろいろな絵カードを用いますが、一度に提示する絵カードはつねに1枚です。そしていろいろな人を相手にし、いろいろな場面で PECS が実行できるよう般化を促していきます。もし PECS をおやつ時間にしか使わないとしたら、それはとても PECS とは言えません! コミュニケーション・ブックはフェイズ2で導入します。これはリングバインダーに単にマジックテープを貼り付け、何枚かの絵カードを貼っておき、絵カードを簡単にはがして使えるようにしたものです。年長児や成人には小型のコミュニケーション・ブックがよいでしょう。例えば1インチ (2.5cm) 四方大の絵カードとシステム手帳サイズのバインダーとで作れます。

フェイズ3：2枚以上の絵カードの区別

この段階ではコミュニケーション・ブックに貼った2枚以上の絵カードから選ぶことを教えます。子どもの識別能力に応じて、新しいカードを徐々にかつ計画的に加えていきます。区別が難しい子どもの場合に役立つ技法が、PECS トレーニング・マニュアルにはいくつか書いてあります。また2日コースのトレーニング・ワークショップでは、実際の応用の仕方が詳しく紹介されます。例えば、最初に選ぶ2枚の絵カードは非常に異なる絵カードにすべきです。子どもが好きなアイテム2つ、例えば「飲み物」と「ビスケット」から選ぶよりも、ひとつは対照的な物、つまり嫌いな物や興味のない物にする方がよいのです。例えば、フロッキー や 洗剤スプーン にします。別の

技法としては、白紙カードを用いたり、2つの絵カードの違いをはっきりさせるために絵カードの色やサイズを変えたりすることもあります。(PECS マニュアルの入手先 Pyramid Educational Consultants UK Ltd, 17 Prince Albert Street, Brighton BN1 1HF, 定価 £25 プラス郵送料 10%)

訳者注 :マニュアルは2002年に改訂されました。旧版はA4版で68頁でしたが、第2版は396頁となり、大幅な頁数の増加ですが、その分とても懇切丁寧なマニュアルになっています。PECSのホームページ <http://www.pecs.org.uk/shop/asp/default.asp> または <http://www.pyramidproducts.com/Products%20Page.html> から入手できます。定価 \$ 45.00)

フェイズ4 : 文を作る

簡単な文を作ることを習得します。着脱式の文用帯 (センテンス・ストリップ) の上に、「ください」絵カードに続けて要求対象の絵カードを貼り付けて使います (日本語の場合は並べる順序が英語とは逆になるでしょう)。子どもは文全体を大人に手渡して絵カードを順に指さし、大人はそれに応じて文を読んであげます。多くの子どもに、この視覚的構造が役立ち、このプログラムのこのフェイズで発声や発語が増加することがよくあります。

フェイズ5 : 「何がほしいの？」に回答する

この時点までは、子どもは常にコミュニケーションを始める側でした。今度は、直接的な質問「何がほしいの？」に回答することを教えます。この場合も、今やおなじみのセンテンス・ストリップを完成させて回答するのです。

フェイズ6 とその後 : 質問に対してコメントする

今度は、「何が見えるの?」とか「何を持っているの?」といった質問に答えて、対象物の名称を言ったり、コメントしたりすることを教えます。すでに述べたように、要求とコメントとの違いを教えるのは難しいことです。最後に、付加的言語概念、例えば形容詞・動詞・前置詞などを教える。

PECS と言葉の発達

一部の親は、コミュニケーションに絵カードを使うことに不安を感じます。子どもに若干の発声や発語がある場合には特にそうです。しかし、長年の研究から明らかになったことは、PECS のような補強コミュニケーション・システムは、実際には発話を妨げるのではなく、むしろ助けるということです。PECS の最近の研究からもそのことは確かに言えます。PECS の目標は子どもに機能的なコミュニケーション・システムを与えることである」とボンディとフロスは力説しています。しかし、1年以上 PECS プログラムに参加すると、多くの子どもが言葉話すようになるという事実は、うれしい驚きです。デラウェア自閉症プロジェクトから分かった事実を知ると楽観的になれる。PECS に参加した子どもの76%が、話し言葉だけでコミュニケーションできるようになったり、絵カード・システムで補強したやり方で話し言葉を獲得したりしたのです。さらに明らかになったことは、話し言葉が発達するにつれて、問題行動が激減したことです。もっと研究が必要であり、英国で

PECS に大いに関心が向けられるようになったので、調査研究と評価とが現在検討されていることはうれしいことです。

過去 10 年にわたり、米国ではより広い範囲にわたるコミュニケーション障害の年少児・年長児・成人へと PECS が拡大適用され、よい成績をあげてきました。英国でも同様の方向に向かっており、望ましいことには英国の場合、調査研究や評価が最初から連動していることです。

さらにアンディ・ボンディとロリ・フロストとが、1998 年に初めて英国を訪れてから、PECS 2 日ワークショップはこれまで 8 回開催されました。これには、英国と米国のプレゼンター（私とダイアン・ブラック Diane Black、米国からはアン・ホフマン Anne Hoffman、カスーザン・ピーターソン Susan Peterson）が、アンディ・ボンディとロリ・フロストの指導の下に関わってきました。このワークショップ後の評価から言えることは、トレーニングは親や専門職などさまざまな参加者のニーズを満たしているということです。

今後も、2 日ワークショップがたくさん企画されており、英国での関心の広がりに対応して行きます。2000 年は、5 月 22、23 日にグラスゴーで、6 月 12、13 日にニューカースルで、6 月 29、30 日にブライトンで開かれます。PECS を広めるための講演会も、他の国々で行なわれています。例えば、フランス、スウェーデン、デンマーク、イスラエル、インドネシア、オーストラリアです。

2 日ワークショップに加えて、最初のトレーニングに参加したことがあり、自分たちの学校・家庭・地域で PECS を広めて行こうとする人には、フォローアップ・ワークショップが用意されています。

PECS の実施に関して、品質を保证するための認証制度もできあがっています。次回のフォローアップ・ワークショップは、2000 年 5 月 12 日にチェシャーで、6 月 27 日にブライトンで開かれます。

トレーニング、PECS マニュアル、ビデオ、臨床サービス（e.g. PECS プログラムを始めた！発展させたりするために家庭や学校を訪問する）についての詳細は、次のところにどうぞ。

Pyramid Educational Consultants UK Ltd,
17 Prince Albert Street, Brighton BN1 1HF,
tel 01273 728888, fax 01273 777055 か、
e-mail: sbaker@pecs-uk.com

あるいはホームページで <http://www.pecs.org.uk/asp/home.asp>
(米国 PECS は <http://www.pecs.com/> - 訳者)

NEWS!

今年（2003 年）、日本で初めての PECS ワークショップ（2 日間）が大阪と東京で開催されます。詳細や申し込みは、日本自閉症協会佐賀県支部 (<http://www2.saganet.ne.jp/autism/>) のホームページをご覧ください。